

白楊ヶ丘札幌

平成28年7月1日
白楊ヶ丘同窓会札幌支部
〒060-0061
札幌市中央区南1条西11丁目
TS札幌ビル
公認会計士・税理士 酒井純事務所内



名門校とは何か

札幌支部 支部長

黒田 信彦

(第七三期・昭和四十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動に対しましては一方ならぬご支援を賜り感謝申し上げます。本年度も皆様方のお陰で総会・懇親会を開催できる運びになりましたことに対して厚くお礼申し上げます。

今年の講演には六八期の今井浩三先生をお招きしますが先生には平成十九年にもご講演を頂いています。私が中部高校の校長だった平成二十年には、当時札幌医科大学の学長を務めていらした先生が「物事を広く見渡す目を」という演題で、後輩の生徒に対し、志を高く持つことの必要性を熱く語られたことを思い出しています。

さて、函館中部高校は昨年十月十七日に「創立百二十周年記念式典」が盛会のうちに行われ、新たな出発をしたところでした。函中といえば名門校、伝統校、進学校、中心校などと呼ばれることが多いけれど、そもそも名門校とは一体どんな学校のことを言うのか、私の考えを整理してみました。

現在市販されている何冊かの書籍には必ず函中も名門校に名を連ねています。それは歴史が長く、過去に多くの著名人を輩出したことや有名大学に多く進学している実績を基準にしています。それは事実を述べたに過ぎず、そんな簡単な定義ではないと思います。

名門校と呼ばれる学校の生



函館山（新幹線の車窓から）

管理するのではなく、生徒を信じて任せており自由度が高いのが特色であります。また、リベラル・アーツを標榜し、教養を高めながら全人格的な能力を増幅し、視野の拡大や思考の深化を教育目標に掲げていることが多いです。

徒は、勉強はもとより部活動や学校行事に熱心であり、企画力や創造力、協調性のある生徒が多く、勉強との切り替えが実に上手です。そして、複数のことを同時にやり抜いた成果が大学合格者数にも現れ、さらに志の高い生徒が集まってくるようになります。つまり、長い時間をかけながら進化した結果と言えます。そして、教師の方も生徒を

の校長は第二世代の細谷猛校長であり、終業式や卒業式における講話では「逆境に負けない人間になれ」とお話しされていたことを覚えています。恐らく校訓の「白楊魂」の精神をかみ砕いて生徒に伝えていたものと思います。私も函中の校長をしていた時には同じようなことを生徒に伝えてきました。こうしたことが函中の「不易」な部分だ

うと思っています。現在の函中は英語教育に特化した取組や医進類型事業など時代の要請に応えた「流行」な取組も推進しており、バランスの良い教育が続いていることは喜ばしいことでもあります。

今、社会は経済一辺倒の

考え方の政策が進められており、高校に対してもスーパーグローバル・ハイスクール事業や留学生を増加させたり、世界経済に負けない人材育成を図ろうとしています。市場原理と教

育の原理は根本から違いが

あり、市場原理を拡大解釈して教育を語ってはならないと思っています。名門校では「人は何故勉強するのか」「生きる力とは何か」などを重要視し、目先の政策の混乱に巻き込まれては

いけないと思います。函中の生徒にはこれから鋭い観察眼と批判的思考力と持ち備え、逞しさを身につけて将来の真のリーダーとして活躍されることを願っています。

一昨年の二月に協賛会を設立し、関係された皆様には大変お忙しいところ十数回の打ち合わせを行い、式典、祝賀会の企画、実施に全力を傾注したところです。とりわけ、教職員の皆様の努力には頭が下がりました。そして先般、その様子が記念誌「白楊魂」に掲載され関係者の皆様にお贈りさせていただいたところです。全国の同窓生から多くの称賛の便りが寄せられました。

当然、同窓会にも少なからずわ寄せがあるものと思えます。このため、本部はもとより各支部におかれましても出席者の増加に向けて、様々な工夫が凝

同窓会の活性化に向けて



白楊ヶ丘同窓会会長

石井直樹

(第六三期・昭和三十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部定期総会・懇親会のご盛会をお喜び申し上げます。函

館中部高校は、昨年創立百二十周年を迎え、十月十七日に式典、祝賀会を実

施し、盛会裏に終えることができました。これも皆様のご支援ご協力の賜物であり、同窓会など三者により構成された協賛会として感謝申し上げます。

一昨年、関係された皆様には大変お忙しいところ十数回の打ち合わせを行い、式典、祝賀会の企画、実施に全力を傾注したところです。とりわけ、教職員の皆様の努力には頭が下がりました。そして先般、その様子が記念誌「白楊魂」に掲載され関係者の皆様にお贈りさせていただいたところです。全国の同窓生から多くの称賛の便りが寄せられました。

当然、同窓会にも少なからずわ寄せがあるものと思えます。このため、本部はもとより各支部におかれましても出席者の増加に向けて、様々な工夫が凝



北海道新幹線

東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田 康次

(第六七期・昭和四十年卒)

思います。同窓会も負けず
に歴史を作っていきたいと
思います。

白楊ヶ丘同窓会札幌支部
の皆様方におかれまして
は、その後もお変わりなく、
お元氣にお過ごしのことと
お喜び申し上げます。
東日本大震災から早5年
が過ぎましたが、いまだに

復興も道半ばというとき
に、今度は熊本地震が発生、
次、どこに起こるのか不安
な日々でございますが、皆
様も色々な形、色々な場所
でボランティア活動に参加
されている事と思います。

去年は母校創立
百二十周年式典、
祝賀会が行われま
した。私も出席さ
せていただきました
が、盛大で華や
かな中にも長い歴
史の重さを感じ、
改めて函中生で
あったことに誇り
と喜びを感じた次
第です。札幌支部
からも多数の方が
出席されたことと

新函館北斗駅

会が長く定期的に開催され
ているおかげと感謝してお
ります。
東京支部は昭和五十二年
十一月に設立され、今年
四十年目を迎えることにな
りました。当時の記録を見
ますと第一回親睦大会には
三百六十六名もの出席者が
いたそうです。最近はその
近くになってしまい、残念
でなりません。何とか多く
の方に参加してもらえよう
な親睦大会にするにはど

この三月二十六日に待望の
北海道新幹線が開業いたし
ました。昭和四十八年に整
備新幹線の計画が出来てか
ら、四十数年経ちますが、
ようやく北海道新幹線がそ
の雄姿を現しました。この
間、陳情や要望に当たった
函館市をはじめ道南の自治
体の努力は並大抵のもので
はありませんでした。それ
だけに開業の喜びはひとし
おでした。約十五年後には
札幌まで延伸の予定であ
り、この時が真に北海道か
ら九州まで鉄路で結ばれる
こととなります。新幹線の
効果は非常に大きく、航空
機に続く第二の交通機関と
して大きな期待が寄せられ
ております。東京からの利
用はもちろんですが、東北
地方の都市との都市間交通
としての利用が期待される
ところであります。先日、
第六三期の有志と仙台で会
合がありました。函館・
仙台間が二時間三十分程
で、時間距離で考えると函
館・札幌間よりも近いこと
になります。例えば、日本
ハムファイターズ戦の観戦
が日帰りでも可能となり、
楽しみが増えることになり
ます。同時に進学や就職の
選択肢も仙台や盛岡などの
東北地方が増加することが
考えられます。いずれにい
たしましても、北海道新幹
線の開業効果が、経済はも
とより教育、医療など多方
面に広がるものと思われま
す。同窓会においても幸い、
札幌支部同様に宮城支部が
あります。お互いに函館本
部との交流はもとより、札
幌、宮城のそれぞれの支部
の間での交流が生まれるこ
とも期待されます。
終わりになりますが、白
楊ヶ丘同窓会札幌支部のま
ますのご発展と皆様の一
層のご活躍を祈念いたしま
して挨拶いたします。

うすれば良いか、役員一同悩んでいるのが現状です。今年も昨年と同じ「グランドアーケ半蔵門」で十月二十二日に開催いたしますので、ご都合のつく方は是非ご参加ください。歓迎いたします。

今年三月二十六日には北海道新幹線が開業し、函館が益々近い存在となりました。

札幌までの延伸はまだまだ先なのですが、早く完成してくれればと願っております。

東京支部の活動状況ですが、昨年の親睦大会は十一月に前年と同じ「グランドアーケ半蔵門」で八五期が幹事期となり「今こそ函館」をテーマに開催されました。講演会では「映画監督が語る被写体としての函館」をテーマに映画監督の富樫森氏をお招きし、映画学が専門の木村建哉氏（成城大学准教授八五期生）がインタビュする形で、監

督がメガホンをとられ、函館でオールロケが行われた「星に願いを」（竹内結子・吉沢悠主演）を題材に懐かしい函館の風景を見ながら、貴重な、楽しい話を聞くことが出来ました。親睦大会の内容は「東京白楊だより」第三九号に掲載いたします。

渉外活動も積極的に行っており、貴支部を始め函館本部、母校、宮城支部、関西支部、東高、西高、商業高、工業高、ラ・サール高の懇親会に出席し、同窓会の運営方法などを参考にしながら親交を深めております。

又、親睦会として平成九年より始めました東高、西高、中部の三校で行われている「函館巴会ゴルフ」は昨年より商業高、工業高を加えた五校で「東京臥牛会ゴルフ」と名称を変えて行われました。東京支部のゴルフコンペ「ポプラ会」も七月と十一月に行われ四十回を

迎えました。ゴルフに関しても若い世代の参加が少なく、高齢者のリタイアも多くなり、毎回メンバーを集めるのに幹事が苦勞していますが、これからも途絶えることのないように頑張りたいと思っております。

その他には、三月一日に母校の卒業式に出席させていただきましたが、私が在籍していた当時と比べ一年の生徒数の少なさ（六学級二百四十名）に改めて少子化が深刻な問題と痛感しました。同窓会にも少なからず影響しているのではと思われま

す。函館では、現在、道立の函館西高校と函館稜北高校の統廃合の話も進んでいるようで、寂しい限りです。先にも書きましたが、四月の評議員会において支部長の人事案が承認され交代することになりました。後任には七六期白川正広氏にお願いいたしました。他の

役員も交代し、七〇期代を中心に戻りを図りました。

九年間支部長をやらせていただきましたが、就任前四年ほど大阪で単身赴任していたこともあり、名前の

理事が突然支部長と言ったことで、大変戸惑っておりました。それでも九年もの長い間支部長を務められたのは、東京支部の会員に支えられながら、函館本部、各支部の皆様にご指導、ご支援いただけたおかげと感謝しております。

当支部の諸問題である会

学校の近況について

員数の減少や、事務所問題など多々あり、中々解決出来る案も浮かばず同窓会発展にどれだけ寄与出来たかわかりませんが、何とか後任に引き継ぐことが出来て、ホットしております。最後にありますが、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の益々の発展と黒田支部長様はじめ、役員の皆様、札幌支部会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、東京支部の近況報告とさせていただきます。本当に長い間、お世話になり、有難うございました。



北海道函館中部高等学校長
中島 悟

はじめに

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

の皆様には日頃より本校の振興と教育活動へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼

を申し上げます。また、昨年十月一七日に行われました「北海道函館中部高等学校創立百二十周年記念式典」に際しましては、札幌支部の皆様をはじめ多くの関係者のご出席を賜り盛大に式典が挙行できましたことを厚くお礼を申し上げます。

私は、本年四月の人事異動によりオホーツク管内の網走南ヶ丘高校から本校第三十八代校長として赴任して参りました。創立百二十年を超える歴史と伝統のある函館中部高校へ着任できましたことは大変光栄に存じますとともにその責任の重さに身の引き締まる想いでございます。微力ではございますが、函館中部高校の更なる発展と充実に向けて全力で取り組んで参ります。前任の千原校長先生同様、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

二 自己紹介

僭越ではございますが、先ずは自己紹介をさせていただきます。私は空知管内の奈井江町の出身で、数学の教員として道北の稚内高校を振り出しに札幌手稲高校・月形高校に勤務し、教頭として沼田高校・上士幌高校・倶知安高校、校長として真狩高校、網走南ヶ丘高校、そして函館中部高校に赴任して参りました。これまで宗谷、石狩、空知、十勝、後志、オホーツクと道内各地を巡って参りましたが、道南函館は初めての任地となります。函館に来て五稜郭公園の見事な校並木や市内に多数現存する歴史的建造物を観るたびに、他の地域にない函館の素晴らしい景観と温暖な気候風土に魅了されています。

三 進路状況

この春に卒業した卒業

生二百三十七名の進路状況についてお知らせします。国公立大学合格者は現役百十三名（昨年度百十二名）・過年度二十一名・計百三十四名、私立大学合格者は現役百七十一名・過年度七十名・計二百四十一名、高等看護学校を含む専門学校合格者は十九名、公務員等就職者は五名でした。国公立大学の現役合格者は二年連続百名を超え、卒業生は大いに健闘してくれました。生徒の頑張りは勿論のこと、教職員の粘り強い指導も高く評価したいと思えます。一方、北大をはじめとする難関大学への合格者が伸び悩んでいるのも事実です。今年度の北大合格者は十七名（現役十二名）でしたが、北大全体で合格者に占める道内出身者の割合は三十七・八パーセントで四割を切っています。北大は自由な学風で知られ、全国的にも人気の高い大学で

すが、総合入試の導入以来、道外勢との競争が年々激しくなっています。今年度の入試結果についてしっかりと分析を行い、今後の対応について検討して参りたいと考えています。

四 学校の近況

部活動が大変活発な本校ですが、今年度も生徒の部活動の加入率は九十パーセントを超え、生徒は勉強に部活動に全力で取り組んでいます。高体連、高文連の支部予選を突破し、全道大会へ進出する部活動は六月一日現在、陸上競技部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、バドミントン部、硬式テニス部、卓球部、柔道部、剣道部、空手道部、弓道部、水泳部、体操部及び放送局となっております。女子バスケットボール部は二年連続の支部大会優勝、男子剣道部は平成に入ってから初めての団

体優勝に輝きました。各部の全道大会での活躍とこれから大会が予定されている野球部、そして吹奏楽局をはじめとする文化系の部活動の活躍にも期待したいと思います。

さて、四月に全日制二百三十九名の新入生を迎え、全校生徒七百三名で新年度がスタートしました。平成二十八年度の高校入試の状況ですが、当初出願では志願者が三百名、一・三倍の倍率がありました。しかし、受検者の辞退等により定員二百四十名に対して最終的には二百三十九名の入学者にとどまりました。定員割れの大きな要因は私立高校、高等専門学校への流失です。学校としても手をこまねいている訳ではありません。中部高校の魅力について地域や中学校によく知ってもらおうと体験入学などの学校説明会や生徒が出身中学校へ出向い

て後輩に説明を行うなど様々な取り組みを行っています。しかし、少子化の影響は避けられない現状があります。

ご承知のとおり今月道教委から発表された公立高校配置計画では平成三十一年度函館西高校と函館稜北高校を再編統合する案が示されました。今後、少子化に伴う入学生の確保が函館市内におきましても一段と厳しさを増すものと予想しております。本校においても学校全体の取り組みとして危機感をもって広報活動を強化し、入学生の確保に努めて参ります。

本校は進学指導だけでなく、特色ある教育実践を行っています。特に英語科はこれまでの先進的な取り組みが高く評価され、本年三月に英語教育において優秀な取り組みを行っている学校を表彰する、財団法人英語教育協議会（ELLE

C）の「第一回ELLE C英語教育賞」で最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。グローバル化の進展する今日、国際社会で活躍できる人材の育成にこれからも努めて参りたいと考えております。最後に校舎大規模改修についてお知らせいたします。現在の校舎は、平成五年に建設されてから二十年以上が経過しています。校舎全体の老朽化も年々目立っています。このたび大規模改修工事の対象となりました。今年度は基本設計の年度で、工事は来年度から開始される予定となっております。

五 学校経営

現在進められている教育改革はこの一年余りで大きく進展しています。昨年八月に中教審・教育課程企画特別部会から次期学習指導要領の論点整理が公表されました。その中で、まず学

習する子どもものの視点に立ち、各教科等の学びを通して「何が出来るようになるのか」という観点から育成すべき資質・能力を整理する必要があります。そして「何を学ぶのか」という、必要な指導内容の見直しとその内容を「どのように学ぶのか」という、子どもたちの主体的・協働的な学び、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の重

要性が強調されています。今まさに「アクティブ・ラーニング」の波が、学校現場に押し寄せてきていることを実感しています。また、大学入試など高大接続改革や次期学習指導要領の改訂に向けた具体的な方向性は今年度中に答申される予定となっております。今年度は極めて重要な一年になります。

こうした教育改革の動向



函館中部高等学校

に努めること」、第三に「校内の連携を密にして、組織的な学校運営を推進すること」、第四に「地域や保護者への説明責任を果たし、開かれた学校・信頼される学校・期待される学校づくりに努めること」です。

教育は人なり、という言葉があります。教育の成果は直接生徒の指導にあたる先生方の力量に負う部分が多いのも事実です。幸い本校は経験豊富で優秀な教職員に恵まれていることや中部高校出身の先生が多数在籍しており、母校への熱い想いを持っていることが大きな強みになっています。校長として、こうした優秀な先生方が持てる力を遺憾なく発揮できるようにしていくことが私の責務であると考えています。

六 おわりに

終わりになりますが、創立百二十年の歴史の中で育

まれてきた函中の伝統をこ
れからも大切にしていくと
ともに、少子高齢化とグ
ローバル化の進展が著しい
今日、時代の流れや変化を
敏感に感じ取り、地域の中
心校として時代をリードす
る学校づくりに努めて参り

ます。皆様にはこれからも
本校へのご支援、ご協力を
賜りますようお願い申し上
げますとともに、白楊ヶ丘
同窓会札幌支部の益々のご
発展と皆様のご健勝を祈念
申し上げます、近況報告といた
します。

回想

函館への想いは 強けれど

小林 三樹

(第五九期・昭和三十三年卒)

出勤時に軽やかな爆音を
轟かせて函館へと機首を向
ける飛行機を見上げ、夕暮
れ時には低空で丘珠に滑り
込む機影を見つけては、函
館との繋がりに思いを馳せ
ている。

「ふるさとは遠きにあり
て思ふもの、そして悲しく
うたふもの、よしや、うら
ぶれて異土の乞食となると
も、帰るところにあるま
じや、ひとり都のゆふぐれ
に、ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころも、そのこ

学生時代の合唱仲間にか
い継がれている愛唱歌に室
生犀星の「ふるさと」があ
る。私一人の時でもしばし
ば口ずさむ。

ころも、遠きみやこにか
へらばや、遠きみやこにか
へらばや」と詠う。
「異土の乞食となると

ても」は、今様にいえば
「たとえホームレスになっ
たとしても心の休まる地で
はあるまいか」となるうか。
私にとって故里とは勿論函
館である。生まれてから
一八歳までを函館で過ごし
た。誰でも生まれ育った地
には家族と少年期の郷愁が
あり大切なものだが、いま
世界には故郷を追われ、故
郷に留まらず、故国を出ざ
るをえない幾多の難民がい
る。それを思うと、行こう
と思えばすぐにでも行ける
故里が近くにあるのは、何
と幸せなことだろう。

さて私たち函中五九期の
大半は、一九三八年度生ま
れて今年度中に七八歳を迎
える。統制経済下で幼児期
を過ごし、函館空襲、防空
壕、灯火管制、食糧難等
を体験し、国民学校一年生
の夏に敗戦、函館には中国
引揚者が多数仮住まいをし
たので教室が足りず二部授
業(午前と午後で生徒が入

れ替わる)が多かった。占
領軍の指示で授業内容か
ら分数の書き方までが頻
繁に変わったことを覚えて
いる。中学一年時に講和条
約、高校一年の一九五四年
秋に洞爺丸台風の惨事(連
絡船五隻沈没、乗客乗員
の何と八十八%に当たる
千四百三十名が死亡)、翌
朝登校すると函中グラウンド
を囲むポプラが根こそぎ倒
れていた。戦争末期に全滅
した青函連絡
船は一九四七年
就航の洞爺丸を
皮切りに次々と
新造されていた
が、津軽海峡で
浮遊機雷(朝鮮
戦争の)が見つ
かると欠航とな
り、修学旅行の
旅程も散々乱さ
れた。夢のまた
夢であった海底
トンネルが幾多
の困難を克服し

て貫通し、在来線列車運行
に続き本年三月に新幹線が
函館まで開通したことは真
に感慨深い。

私が入学した当時の函
中は歴史ある横長の木造校
舎(一九〇六年の建築)で
あり、朝礼時に整列する中
庭には黒い玉砂利が敷き詰
められていて、冷気のなか
身の引き締まる思いであっ
た。生徒会、新聞会はじ
めクラブ活動は実に盛んで



はこだてライナー

あった。三年生の一五六
年十一月には、RC校舎
への改築工事の一部が竣工
し、落成式を兼ねた創立
六十周年記念式典が新体
育館で催され、田中正弦
氏ら大先輩の講演を拝聴
できた。卒業を目前にし
ていた私たちの学年は翌日
から新校舎に入れてもらっ
た。五九期の卒業生は七ク
ラス、三百六十名（内女性
百二十五名）である。男女
共学になったといってもま
だまだ男子が多かった。

ところで中部高校校歌
「火柱のはためく峰も」に
歌われる藤原直樹先生は国
語の授業で、酒井武雄先生
は音楽の授業で日々接する
現役教師であった。函中音
楽部で酒井武雄先生の薫陶
を受けて札幌に住んだ先輩
（三河勝彦さん大畑耕一さ
ん佐藤慎一郎さん伊奈さん
二川さん西脇さんたち）と
は、何度か会合もし、今で
も仲良しである。

私は同級の柴野直行さん
と北大恵迪寮に入寮を許可
された時、「俺の部屋に入
れ」と誘って下さったのが、
函中一年先輩の三谷富夫さ
ん（前の本部同窓会長）で
あり、以後同じ部屋（五人
部屋）で寝起きを共にし、
親元を離れて初めて暮らす
者に社会の一般常識から進
路指導まで幅広くご指南を
いただいた。

高校卒業後、札幌に出て
来た四十名ほどの同期生は
何度か集まり、励まし合い
近況を伝えあっていたが、
手を尽くして在札者名簿
を整備し案内しても参会者
が徐々に減り、一九八〇年
ころからか立ち消えになっ
てしまった。地元函館では
勿論毎年しっかりと続けら
れており、東京では二十名
ほどで同期の集まりが続い
ている（真船昭幹事）。親
しい友人同士の個人的交流
はどの地でも続いていると
聞くと、夜更けまで酒を酌

み交わして激論していたこ
ろの体力は失われ、最近で
は、お茶会、碁会、お昼の
バイキング程度の再会しか
できなくなってきているら
しい。でも青少年時代から
の同郷・同窓の友としての
精神的信頼関係が、老境に
至るまで保たれているのは
真に幸せなことであり、大
切にしたい。



函館旅行記

中村大輔

（第二〇四期・平成十四年卒）

札幌市内の私立高校で教
員をしている私は、様々な
進路指導の資料や部活動の
対戦結果などで、母校・函
館中部高校を目にする機会
が多くあります。文武両道
を目指す後輩たちを想うと
同時に、十数年前の自分を
重ね合わせて見えています。
さらに教員として、高校生
を指導する際には、どうし
ても自らが高校生だった
頃、つまり函中生のときの
考えが一つの物差しになっ

ており、折々に「自由」と
「責任」という単語が頭を
過ります。
さて、私は上磯町（現・
北斗市）当別の出身で、高
校入学時に函館市内に引ッ
越し、函館中部高校へ通学
しました。二〇〇二年には
大学進学とともに札幌市に
移りましたので、北斗市へ
の市町村合併や新幹線開業
にともなう在来線の「道南
いさりび鉄道」への移行は
物寂しく感じます。これ

により、函館駅から渡島
当別駅までの片道運賃が
七百四十円となったと聞く
と過疎が進んでいることを
実感します。
この度、支部報に掲載す
る写真を撮影しようと、六
月中旬に函館市を訪れてみ
ました。市電やバスの中
には、新幹線デザインのもの
もあり、街が新幹線によっ
て活気づいているように感
じました。せっかくならと
新函館北斗駅までの「はこ
だてライナー」にも乗車し
てみました。以前までの鈍
行列車のイメージとは大き
く異なり、約二十分まで到着
することに驚きましたが、
それ以上に、札幌の昼間の
地下鉄並みの混雑が見ら
れ、衝撃を受けました。ま
た、乗車率が心配された新
幹線も、土曜日の午後とい
うこともあったかもしれま
せんが、十両編成の車両に
空席が二十席程度と、ツ
アー客を中心に賑わってい

ました。一方、新函館北斗駅前にはレンタカーの営業所があるだけで、まわりにはコンビニひとつなく、この駅で時間を過ごすことは限界があまりそうです。また、新幹線での移動中、防音壁やトンネルなどで景色が見えるところは少なく、特に青森県内は携帯電話等の通信手段が繋がりにくいエリアが多く、新幹線が単なる移動手段と化してしまっているような気がしました。航空機とは異なり、新幹線での移動は長時間にもなるため、そのような点での工夫がこれからの課題



函館市内を走る市電

であるように思います。これから札幌までの延伸が進みますが、雪国北海道で新幹線をスムーズに運行させるためにはトンネル中心になることは仕方ありませんが、これらの工夫があることで多くの乗客の満足度は高まるのではないかと思えます。加えて、北海道新幹線が

平成27年度収支計算書

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,625,378	
年会費	260,000	@2,000円 / 126名 現金払 @2,000円 / 4名
終身会費	185,000	@10,000円 / 5名 @15,000円 / 1名 @20,000 / 6名
総会懇親会費	334,000	@5,000円 / 56名 @3,000円 / 12名 現金払 @5,000円 / 3名 @3,000円 / 1名
広告掲載料		
雑収入	40,000	総会祝儀・寄付金等
預金利息	232	郵便貯金
収入計	819,232	
収入合計	2,444,610	

支出の部		
科目	金額	摘要
総会懇親会費	308,000	会場関係費
講演会費	30,000	
印刷費	212,156	白楊ヶ丘札幌、総会通知、年会費払込票等印刷費
会員名簿作成費		
通信費	167,609	総会通知、支部報、発送費等
旅費交通費	103,000	本部・他支部総会参加旅費、その他交通費
会議費	73,980	役員・幹事会費
事務費	26,344	文具・消耗品費
振替手数料	17,960	郵便振替手数料
雑費	55,918	本部・他支部祝儀・その他雑支出
支出計	994,967	
次期繰越金	1,449,643	内訳財産目録のとおり
支出合計	2,444,610	

財産目録		
種類	金額	摘要
現金	56,490	
振替口座	734,526	
郵便貯金	658,627	
合計	1,449,643	

北海道内を結ぶ高速鉄道としての役割を果たすことを期待したいです。以前、東北地方を訪れた際に、盛岡から仙台まで新幹線で通勤しているという話を耳にして驚いたことがあります。日本一面積が大きい北海道だからこそ、地方と地方を高速に結ぶ手段として新幹線が好まれると思います。

北海道に住む私たちは、地方を移動する際に数時間を要することは当たり前と考えているため、仮にこれが一時間以内で移動できるとなれば、訪れる機会も増え、地域の一層の活性化につながるかと考えます。十数年後に、函館と札幌が結ばれたら、函館から札幌の勤務先に通うことも考えられ

ます。最後に、今回、函館を訪れる前日、内浦湾を震源とする地震が発生し、函館市の一部では震度六弱を記録しました。函館市で生活していた頃にも、この程度の地震を経験したことはなく、大変驚きました。被害にあわれた方に心よりお見舞い申し上げます。

白楊ヶ丘同窓会札幌支部 第36回定期総会・懇親会

講演会

「東京大学における患者さんのための研究」

講師 今井 浩三 氏 (第68期)



(ご略歴)

昭和41年 函館中部高等学校卒業 (第68期)
昭和47年 札幌医科大学医学部卒業
昭和53年 米国NIH Fogarty 国際博士研究員
昭和60年 英国ケンブリッジ大学
MRC研究所 上級研究員
平成6年 札幌医科大学内科学第一講座教授
平成16年 札幌医科大学学長
平成19年 北海道公立大学法人 札幌医科大学
学長・初代理事長
平成22年 東京大学医科学研究所
病院長・先端医療研究センター教授
平成26年 東京大学医科学研究所
医療イノベーション推進室 特任教授
神奈川県立がんセンター臨床研究所・所長

平成28年 東京大学医科学研究所
学術共同研究支援室室長、客員教授
文部科学省 新学術領域研究・
生命科学連携推進協議会会長
(学会等および社会における主な活動)
文部科学省 中央教育審議会委員
日本癌学会 理事、副理事長、総会長、名誉会員
日本消化器病学会 理事、
大会会長・日本消化器関連学会機構 (JDDW) 会長
日本がん治療認定医機構 理事長、理事
その他多数
(受賞・栄誉)
紫綬褒章受章、春の園遊会招待、
日本癌学会学術賞長與又郎賞受賞、その他多数

函館中部高等学校校歌

作詞 函館中部高等学校教諭

藤原直樹

作曲 函館中部高等学校教諭

酒井武雄

一、火柱のはためく峰も

年古りて緑の臥牛

宇賀の浦風の砂山

波よせてくずれ流るる

見よや物なべてうつろふ

窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど

その底には草は芽ぐめり

野山荒れ鳥潜めども

やがて来ん春の光に

万象の蘇る見よ

ここにあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺

秋深き梢仰げば

冴え渡る銀河の彼方

幽けくぞ星雲燃ゆる

胸に満つ久遠の思ひ

遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に

生命あり不壊の学び舎

聞けや今窓の外遠く

新潮の入りくるひびき

よしさらば若人われら

踏まんかな希望の門途

函館中学校校歌

(同窓会歌)

作詞 第二高等学校教授

土井晩翠

作曲 東京音楽学校教授

岡野貞一

一、玄冥の北の一道

関門の岸に臨みて

青春の薫にしるく

基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟

人生の花の綻び

身を鍛へ心を練りて

向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水

駒が岳千仞の山

微を積みて高きに至り

滴より空をもひたす

四、形ある無言の教

仰げ我が紅顔の子等

業成らば双の方の上

興国の運も負へかし

五、母校の名子弟の誉

花と香と常に伴ふ

任重く道の遠きを

嗚呼健児勉めざらめや

編集後記

今年も無事に支部報を発行することができ、ご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。先輩から引き継いだ伝統ある支部報を完成させるまでの緊張感は、その歴史の重みを感じさせます。これからも同窓の方々に読んでいただける支部報づくりを心掛けたと思います。今回は、北海道新幹線開業で盛り上がる函館市を訪れ、変化する街並みを感じていただきたいと思ひ、多くの写真を掲載しました。報道等では、北海道新幹線の乗車率の低さなど問題視されましたが、私が訪れた週末は、大賑わいでした。自分の目で見て確かめることの大切さを再認識しました。

また、「Face book」ページも開設しておりますので、是非とも「いいね」を押していただき、ウェブ上を通じて若い方々への情報発信をしてまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(一〇四期中村大輔)

